

第8章 記念碑・モニュメント ～記憶・記録を形に～



1 福岡獅子舞由来碑(福岡町) 昭和50年建立

福岡の獅子舞は、明治37年(1904)に粟生から福岡にもたらされました。暫く空白時期がありましたが、昭和50年(1975)に同町の叶井悟氏などの尽力で福岡子供獅子として復活しました。

2 能美ライオンズクラブチャーターナイト 30周年記念(大成町) 平成4年建立

「ハマナスの泉」と名付けられたモニュメントです。上部にハマナスの花が開き、手前に葉が添えられています。チャーターナイトとはクラブが国際協会の一員となったことを示す認証状を伝達する式典のことです。



3 内閣総理大臣就任記念(大成町) 平成12年建立

森喜朗氏は、平成12年(2000)に62歳で第85代内閣総理大臣に就任されました。当時の根上町と姉妹提携のロシア・シレホフ市でプーチン大統領と会談、在職中に5回にわたって信頼関係を築きました。IT戦略本部を立ち上げ、教育を変える17の提案等の足跡を残しました。



4 シレホフ市提携20周年記念(大成町)

昭和43年(1968)に提携して以来、「平和と友情」を掲げ、人と人の交流、草の根交流を活動の基本として日露友好に努めています。当時の森茂喜町長とアルヒーポフ市長の相互訪問、民間外交、中学生同士の交流を継続しています。

また、平成28年(2016)にシレホフ市の団体を迎えて、親善協会創立50周年記念式典を行いました。

5 根上町合併40周年記念(大成町) 平成8年建立

明治40年(1907)に福江村・江ノ島村・釜屋村が合併し、根上村が成立し、昭和9年(1934)に町制が施行されました。同31年(1956)に吉原・赤井・西任田を編入合併し、それから40年を記念したものです。



6 根上隕石碑「宇宙からの贈物」(大成町)

平成7年(1995)2月18日23時55分頃、北北西の上空より隕石が大成町に落下し、日本で初めて普通乗用車に直撃した唯一のものであります。落下した際に分裂した大小合わせて4個の破片と細かい小片、合計420gほどが回収され、27日後には測定が行われ隕石認定されたという日本最速記録です。市内の小学4年生が「子ども宇宙科学室」で毎年学習しています。



7 昭和天皇御手蒔の杉(大成町) 昭和58年建立

昭和58年(1983)5月22日に第34回全国植樹祭(津幡町・石川県森林公園)において、昭和天皇が杉の種子をお手蒔きになられました。その時の苗木を植樹したものです。

この成長した杉は、平成27年(2015)5月17日の第66回全国植樹祭(小松市・木場湯公園)の際に鋤として使用され、その時に現上皇が「父君の 蒔かれし木より 作られし 鋤を用ひて くろまつを植う」とお詠みになられました。



8 内閣総理大臣就任記念樹(大成町) 平成12年建立

森喜朗氏は平成12年(2000)4月5日、62歳で第85代内閣総理大臣に就任されました。当時の根上町と姉妹提携のロシア・シレホフ市でプーチン大統領と会談、在職中に5回にわたって会談して親密な個人的信頼関係を築き、諸議案の前進を図ろうと努力を重ねたことや、アフリカの問題解決なくして21世紀の世界安定と繁栄はなしと明言しました。IT戦略本部を立ち上げ、また教育を変える17の提案等々、21世紀という新たな時代のスタートに向けた布石を打つ貴重な足跡を残しました。



9 大成町60周年記念樹(大成町) 平成28年建立

昭和31年(1956)1月1日に、当時の野・重住・印内・濁池・高坂飛地・浜開発飛地の集落が、「和をもって第一とする」基本理念のもと合併して「大成」となりました。「大同期成」、「大願成就」を願い、町章は5つの地域を意図とする5弁の桜としました。平成28年(2016)、大成町60周年記念に森喜朗元内閣総理大臣から寄贈され、世界平和のシンボルである「陽光桜」(別名、紅吉野)2本を移転新築の公民館「さくら会館」前に植樹しました。鮮やかな紅紫色で、一重咲き大輪の花を咲かせています。

10 能美根上スマートインターチェンジモニュメント(吉原釜屋町)

三つのリングを重ね合わせ、能美市の「の」をモチーフに、連携、平和、一体感を表現しています。また、ふるさとの山並みを思わせる上部の曲線は、豊かな恵みをもたらす「ふるさと」への愛着を表現しています。

三つのリングの各中央には角柱の九谷焼モニュメントを設置し、360年の伝統を誇る九谷焼五彩(緑・黄・紫・紺青・赤)の丸皿で能美市の自然豊かな四季をイメージして未来へと明るく輝き広がる光を表現しています。





11 根上中学校大陶壁(浜町)

昭和60年建立

高さ9m、横14mの陶壁画は巨大なジグソーパズルを思わせます。松林と日本海の荒海、海辺に咲くハマナス、遠くには白山そして大空に輝く太陽が、根上の町並みを照らしている様子が、大小7千枚の陶板で構成されています。加賀市の陶芸家九谷興子が約2年の歳月をかけて完成しました。

12 根上町民憲章(浜町)

田園と砂丘の地に抱かれた美しい郷土を、こよなく愛し祖先に感謝し、お互いに尊重し合い心一つにして、快適で住みよい生活を営むことができ、町に愛着と誇りを持ち、より豊かでより幸せな町づくりをめざす道しるべとして、この憲章を定めました。



13 椎「バスケ全中記念」(浜町) 平成9年建立

昭和46年(1971)度における根上中学校の男子バスケットボール部の足跡を記す記念樹です。第1回全国中学校選抜大会での優勝と中学生初の海外遠征を果たし、培材中学校(韓国・ソウル)と国際親善試合を行いました。

姉妹校提携の契機ともなり、記念として平成9年(1997)に植樹されました。



14 競歩世界新記録記念(中町)

平成21年(2009)の世界陸上ベルリン大会や同24年(2012)のロンドン五輪などに出場した緑が丘出身の鈴木雄介選手が、同27年(2015)に行われた第39回全日本競歩能美大会(2km周回コース)で世界記録を樹立した記念のものです。令和元年(2019)には、世界陸上ドーハ大会での50km競歩で優勝しました。



15 ピオニールキャンプ参加記念碑(道林町)

ピオニールはロシアの少年団であり、昭和51年(1976)に根上町とシェレホフ市との姉妹都市提携を結んだ際に、交流が始まりました。日本で最初の中学生の相互交流が行なわれ、人と人の友好交流、草の根交流を活動の基本原点として継続されています。

ピオニールとは、社会的活動を行なうことによる祖国愛・友情・協力・忍耐・平和などの精神の育成を目標に、活動しています。

現在は校外活動の組織として、新たにボーイスカウト・ガールスカウトなどピオニールに代わる民間青少年組織があり、教育省が支援しています。

16 閑院宮春仁王殿下台臨記念碑(寺井町)

昭和11年建立

閑院宮春仁王は、昭和天皇の祖父のいここにあたる方で軍人でした。昭和5年(1930)に手取川河川敷で行われた第9師団秋季演習の視察のために来訪され、旧寺井小学校で休憩されました。来訪を記念して、6年後に旧小学校(現寺井中学校)敷地内に建立されました。



17 五箇条のご誓文碑(末信町) 昭和18年建立

昭和18年(1943)5月に建立された石碑で、明治改元の際に表明された「五箇条のご誓文」、もう片面に陸軍大将の林銑十郎による「国威宣揚」の文字があります。旗木の台座としても使用されていました。

林銑十郎は金沢出身で、昭和12年(1937)に内閣総理大臣になっています。

18 大正御大典記念碑(牛島町) 大正4年建立

19 平成御大典記念碑(牛島町) 平成2年建立

牛島の神社には2基の御大典記念碑が建てられています。左側は大正天皇の御大典記念で、大正4年(1915)建立、右側は平成の御大典記念で、平成2年(1990)に有志による還暦記念として建立されました。



18



19

20 九谷五彩モニュメント(佐野町)

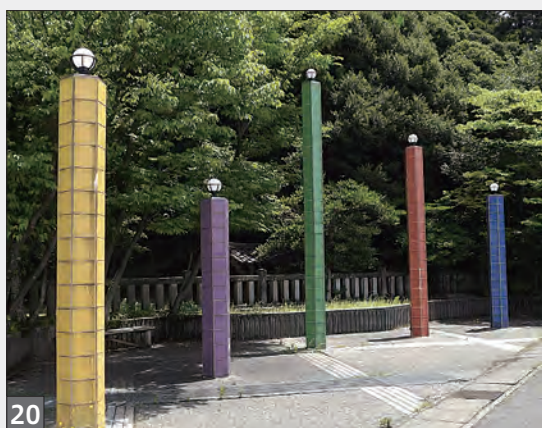
21 茶碗まつり発祥の地(佐野町)

22 作品展示塔(佐野町)

茶碗祭りは、開祖斎田道開の遺徳を偲び、道開の命日である6月21日を祭日として、明治41年(1908)から始まり、昭和3年(1928)から「佐野茶碗祭り」として、本格的に開催されています。最初は狭い参道の片側に店を出していましたが、石崎正紀会長時代、参道の両側を買収し、鉄骨の広い店を開くこととなりました。同48年(1973)からは連休の5月3・4・5日となり、名称も「九谷茶碗祭り」と名称をかえ、佐野会場は、九谷焼資料館や陶芸村の建設とともに、同58年(1983)から泉台に会場を移し行われています。



22



20



21

23 九谷焼ビッグモニュメント(泉台町)

平成5年建立

泉台ニュータウンに、九谷焼の振興を図るため九谷陶芸村が設置され、作家村、九谷焼卸団地、九谷焼資料館、続いて県立九谷焼技術研修所、九谷陶芸館などが建設されました。

九谷陶芸村の中心施設として九谷焼資料館(現、能美市九谷焼美術館五彩館)が昭和57年(1982)に、平成5年(1993)には浅蔵五十吉美術館がオープンし、同時にモニュメントが建設されました。モニュメントの壁画は武腰敏昭氏が、陶像は谷村俊英氏が制作しました。



24 九谷陶芸村モニュメント(泉台町)

平成2年建立

九谷陶芸村のシンボルとして商店街のロータリーに設置されています。輪の部分は世界へはばたく九谷の繁栄を願い、階段には九谷五彩(緑・黄・紫・紺青・赤)の陶板がはめこまれています。

25 華泉の像(湯谷町) 昭和61年建立

能美市出身の彫刻家谷村俊英氏の作で、寺井町30周年を記念して作られました。



26 セツ滝モニュメント(長滝町) 平成6年建立

農村環境整備事業の一環として、農業用の貴重な水源でもあるセツ滝への道筋に設置されました。



27 皇太子殿下御降誕記念(三ツ口町)

昭和10年建立

皇太子殿下明仁親王(現上皇)の御降誕(昭和8年12月23日)を記念しての建立です。建立は昭和10年(1935)で、三ツ口八幡神社の社標として神社正面に建っています。



28 モニュメント「未知への指標」

(来丸町) 平成11年建立

辰口町連合婦人会からの寄贈のモニュメントは、彫刻家の山下晴子氏の作です。平成11年(1999)の新庁舎のテープカットにあわせて除幕されました。



29 開湯千四百年記念碑(辰口町) 平成3年建立

辰口温泉は養老の昔(720年頃)、すでにこの温泉で馬の脚の傷を癒していたと伝えられていることから、開湯千四百年記念碑を創設したものと思われます。



30 全国植樹祭行幸記念(辰口町)

昭和58年建立

昭和58年(1983)5月22日、津幡町森林公園で開催された第34回全国植樹祭に臨席された昭和天皇が、前日の21日に鶴来町の石川県林業試験場へのご訪問の際にご来町され、辰口総合福祉会館で小憩されました。町内4ヵ所の奉迎場所には多くの町民がつめかけ、総合福祉会館では松崎町長をはじめ多くの方々がお迎えしました。このご来町を記念して、町の木・赤松を植樹し石碑を建立しました。

31 辰口中学校アカンサスの碑(2基)(辰口町) 昭和40年・平成24年建立

アカンサスは、キツネノゴマ科の葉アザミの総称で、夏に淡紫色の穂状の花を咲かせます。古代ギリシア・ローマ建築の柱頭に使われた「理想」を花言葉にしています。昭和25年(1950)に前身の山上中学校(昭和22年(1947)創立、同24年(1949)岩内の新校舎で授業開始)の校章設定の時、徳山町の中川一郎画伯がデザインしたものです。理想の象徴「アカンサス」として、大切に受け継いできている校章です。学校文集名が『アカンサス』であり、校歌三題目の歌い出しの歌詞「理想の象徴(しるし)アカンサス」にもあります。また校庭の一角にアカンサスが植えられていて、いつでも生徒たちの目に触れることができます。左は昭和39年(1964)度卒業生寄贈の石碑で、右は平成23年(2011)度卒業生寄贈の石碑です。



32 開墾記念碑(もも山)(緑が丘) 昭和51年建立

33 暁烏敏師句碑(緑が丘)

上開発村の南方丘陵地で、大正5年(1916)に石川郡林中村平松(白山市)の松田真一氏が、約5千坪(1.65ha)の山林を拓き、果樹園を作りました。果樹園には、桃・葡萄・梨などが植えられ、遠くからでも桃源郷を思わせる風情であったことから、村人が



この一帯を「もも山」と呼び親しまれました。しかし、戦時中の食糧難の折、果樹園は芋畑となり、現在は果樹園のあった一角に記念碑が建てられ、その近くに、暁烏敏師(白山市出身の真宗大谷派の僧侶)の句碑も建っています。

句碑の左にある由緒碑には次のように記されています。(一部判読不可)

大正五年此山林五千歩を開墾し果樹を栽培せしは松田真一・すずにして鋤の逞しく
大地を耕作す 援けしは一郎・美農なり 林檎桃葡萄梨等々豊饒の歓喜は苦難の涙
となりて桃山と称され星霜五十余年 嗚呼樹木落ち此に眠る

昭和五十一年 松田章一撰 高坂〇〇

34 荒屋いまむかし発刊記念(荒屋町) 平成12年建立

『荒屋いまむかし』は町民の協力により、平成12年(2000)8月に発刊され、これを記念して植樹されました。樹種は表紙を飾るハナミズキです。



35 地平天成の碑(大典記念)(金剛寺町) 平成2年建立

昭和20年(1945)に、日本は長く続いた戦争に敗れ、再び戦争はしない、平和な国で歩むことを世界に約束し、それから40余年後に、元号は「平成」となりました。天皇御大典を記念して、「平成」の語源である「地平天成」の碑を青・壮年団が総出で建立しました。



36 加賀唐津辰之口窯碑(金剛寺町)

金剛寺・杉谷林道入口の安田宏三さん炭窯前にある石碑です。佐賀唐津窯の名工の西岡小十氏が当地の土に惹かれて造った窯場で、木造建屋も完備され、「加賀唐津辰之口窯」と命名され、平成11年(1999)正式の窯場として開業、同年10月には金沢大和で「辰之口窯開窯記念・加賀唐津西岡小十作陶展」が開かれるなど、辰口の地にも陶芸の灯りがともされました。残念ながら西岡氏は平成18年(2006)に亡くなられ、今は窯場を引き継ぐ人材を待つ状態です。現在、ずっとお世話してきた鶴来町小堀酒店が管理しています。この話のきっかけは辰口町長近藤俊明氏著『来た道を辿る』平成31年4月刊)によります。